

農業生物資源研究所 NIASオープンカレッジ (共催:LWWC207)

問題点: 農業生物資源研究所の研究成果を社会に発信する機会が不足している
生物資源の改良の歴史や社会貢献に関する情報発信が、充分とは言えない



企画目的: メディアの集積地である東京において農業生物資源研究所の研究成果を定期的・効率的に情報発信する
生物学リテラシー向上を通じた社会貢献

企画内容

平成20年4月から8月にかけて、東京の四ッ谷(主婦会館)でNIASオープンカレッジを開催した(毎週水曜日)。メディア関係者、社会人、学生など44名(登録参加数)が受講し、当研究所の最新研究成果や海外の動向など、様々なテーマを元に講義を行った。最終日には受講者との意見交換の場が設けられ、研究所の情報発信のあり方などについて参加者と意見が交わされた。

各講義の様子



左上:石毛理事長 (4月16日)
上:佐々木理事 (4月23日)
左:新保理事 (7月2日)

講義シラバス(平成20年度)

日時	講義者	講義タイトル
4月16日	石毛光雄	遺伝子組換え作物開発までの研究の歴史
4月23日	佐々木卓治	植物ゲノム研究
5月14日	廣近洋彦	植物の能力を活用するための基盤研究
5月21日	河瀬真琴	多様な遺伝資源の収集保存と持続的利用
5月28日	田部井豊	遺伝子組換え生物等の安全性評価システムと安全性確保のための技術開発
6月4日	矢野昌裕	遺伝子情報を利用した品種改良
6月11日	中川仁	放射線を用いた突然変異育種
6月18日	飯哲夫	耐病性農作物の作出に関する研究
6月25日	高岩文雄	機能性農作物の開発
7月2日	新保博	昆虫・動物資源の利用
7月9日	竹田敏	昆虫における遺伝子機能解析と利用研究
7月16日	川崎建次郎	環境保全型農業を実現する技術の開発
7月23日	田村俊樹	遺伝子組換えカイコの作出法の開発と有用物質の生産
7月30日	栗原光規	家畜研究の新たな展開
8月6日	木谷裕	遺伝子組換え家畜の作出と利用
8月6日	石毛光雄	受講者との意見交換、総括

企画成果と今後の予定

約4ヶ月、合計15回の講義を修了した参加者(修了証発行者)は27名であり、修了者比率は申込者数の61%となった。参加者の主な意見は以下の通りであり、概ね高い評価を得ている。来年度についても、秋から15回を開催する予定であり、今後さらに多くの一般参加者が得られるように取り組む予定である。

参加者の感想と主な意見

- ・今回の様な講座は、(遺伝子組換え技術に対する)一般消費者の理解にもつながると考える。
- ・ゲノム解析は一般的に理解の難しい分野である。今後とも分かり易い情報提供に期待したい。
- ・わが国のカイコや昆虫に関する研究が、世界の最先端の研究であることを知り、驚いた。
- ・放射線を利用して作られた品種がこれほど普及しているとは思わなかった、今後の研究に期待する。
- ・遺伝資源の探索や保存の具体例を聞く事ができ、大変勉強になった。
- ・科学技術について正・負の両面から学び、判断するためにも、今回のような質の高い講義の継続を望む。

意見交換会と質疑応答の様子

(左)意見交換会の様子(8月6日)
(中、右)カイコの実物展示と質疑
応答の様子(7月9日)

